とはいえない。主だったタスクフォースが結集して実施したので、全体としては十分な質が保たれたが、主催大学のタスクフォースは未熟な点が多々ある。

- スケジュールに記載の表のスケジュールについては関係者全員の意思が統一されている。一方プログラム外については、自信を持って実施するところまで至っていない、開催期間中のタスクフォースの打ち合わせの開催ならびにその内容について折に触れてフィードバックした。

9．参加者

・遅刻者、欠席者、議論・作業への参加、P会場・S会場での質問など。

- 迷って自己紹介中に入られた方がおられたが、その他に問題はなかった。
- どうしても、入り辛い方々がおられますが、問題はありませんでした。
- 情報交換会で、十分なコミュニケーションがとられたため、2日目は議論も非常に活発に進行していた。
- 遅刻者や欠席者はなかった。
- 前半のセッションではS会場で議論に加われない参加者が少しいたが、タスクフォースが相づちをするなど、発言を引き出す工夫をすることで後半では活発な議論に発展していた。
- P会場では、冒頭のセッションで参加者の発言があるまで粘り強く待つ姿勢が貫かれており、そのことが序盤のセッションから最後のセッションまで活発な討論を導く結果となっていた。
- 参加者の議論が活発な時は、内容を静かに聞き、指摘すべき部分があるときは、他のタスクにどのような点を指摘するかを話した後で、責任者が指摘するか、他のタスクフォースが指摘すべきかの指示を出していた。議論への入り方（指摘の仕方）が自然で、参加者が受け入れやすい話し方、態度であった。参加者から出たキーワードを大切にし、誘導せずに自然にプロダクトへ盛り込んでいけるような配慮が見られた。
- 若い参加者が多く、実務実習を良くしていこうという気合が感じられた。発言の量には多少の幅があっても，議論へ参加する姿勢は良く、多くの参加者が前向きだと感じた。1日目、2日目ともに「ニーズに合っていた」という回答が多かった。
- ゲームの内容を知っていると思われる大学教員の点数が低かったが、賞品の贈与対象になっていた。明らかに知っている場合は、賞品の贈与対象からははずすべきではないかと思った。
- 実習を受け入れている薬剤師が増えてきていることで、すでにコアカリを知っており、自分の関連するところの SBOs を覚えている参加者がいた。SGD の議論の中で、「こういう表現だった」とか「こういう書き方をしていた」というふうな発言があった。自由な発想でコアカリにとらわれないように促したが、今後、こういう参加者が増えてくると、議論の幅が狭まることも予想される。
- Pでの発言が少ない。
- 今回のＷＳの主催が４大学のため、１Ｓあたり参加者が病院（大学関連病院の参加者が大半）６名、薬局２名、大学１名の構成であった。

- 遅極端な SGD の雰囲気を損なうレベルの不参加者もいなかった。あくまで○○捗地区との比較になるが、全体的に不活性であると感じた。S で議論が途切れるわけではないが、活発であるとも言い難く、○○地区に比べて SGD で提示される情報量は半分程度という印象である。また、参加者はＳＧＤでは発言するものの、三役への立候補やグループの意思を決定づけるような発言をためらう傾向が見られた。Ｐ会場での発言は、一部の参加者が非常に積極的であり、時間を気にすることなく質問、応答、発表をしていた。参加者もその状態を受け入れている雰囲気があった。時計係がベルを鳴らすなどの努力はしていたがまったく通じていなかったので、Ｐ会場で過度に発言をし、全体への利益となっていない参加者の発言を、司会者レベルでコントロールしてもよいと思った。

１０．実施プログラム

・セッション、講演など。

- 総合プレ・ポストアンケートおよび２日目の評価については、全体会場にて行うことで、他のチームとの違い等も含めてフィードバックすることも検討してみては如何か。片付け等もスムーズに進められるかと思う。
- 事前に使用する PPT は、PC の中にダウンロードしておくとよい。
- 開局薬剤師が議論に加わりにくいチーム医療や病院薬剤師が議論に加わりにくいセルフメディケーションにおいては、参加者間でキーワードの説明があり、情報を共有した上でグループワークへと進むことが自然になされていた。
- 薬学教育改革の歩みに関する講演は、最新の情報を取り入れた内容であり、参加者の満足度も高かったと感じた。
- 中島先生は DVD での講演であったが、何度見ても新しい発見があり、わくわくする講演であった。
- 新しい取り組みのトライアルがあった。昼食の時間にコミュニケーションについて議論するトライアルは、直接その内容が方略の議論に生かせたという実感はなかったが、議論していたことで、お昼のコミュニケーションアップにはつながり、その後の議論に好影響があったかもしれないと感じた。
- 最後の評価の後の、自由質問時間は、評価の後であったため、どうしても評価の質問に集中した。参加者にとっては、消化不良を解決する良い機会かもしれないと感じた。
- 今回、方略の作業時間が 120 分の設定であり、受講者の十分なディスカッションや目標の見直しと方略のプロダクト作成に非常に効果的と感じた。今後の WS において方略の作業時間延長を検討してはと考えます。
- コンサルタントの講演は参加者にとってもタスクフォースにとっても非常にモチベーションが上がるもので、ためになっていると思える。
- コンサルタントの講演の中での自大学の事例紹介については、どこの薬学部でも行われているという誤解を与える可能性があるので、配慮いただきたい。

１１．全体をとおして

・何でも結構ですので、遠慮なくご回答ください。

- 遅刻者への連絡について統一した対応を決めておくべき。
- 大学教員および女性のタスクフォースが揃っている。
- KJ 法のトライアルについては、参加者がカリキュラム作成において利用する、しないは別にして、話題提供および考えてもらうということについては有効であると感じた。
- PPT は、前日の練習会の前までには、メール等で事務局へ渡しておき、セッションに入る前に準備しておいた方がよい。
- カリキュラム全体の質疑応答の時間を取ってあることについては、よい試みである。
- S 会場にて作業をする場合には、参加者への配布物がＳ会場での配布、または、セッションの説明終了後の拍手が無かったことが原因かはわかりませんが、参加者が、スルーっとＳ会場へ行くような状態であったため、締りがないように感じた。
- ○○地区では、機材等が調整機構の所有物になっているので、一括管理することによりコストも然りではあるが、システムとしていいと感じた。
- スケジュールの変更を検討するのであれば、事前に送られてくる内容の折に議論しておくべきであって、チーフタスクに事前の申し立てもなく、当日に話すことではないように感じた。
- 評価のセッション時に、目標、方略の略語等（RUMBA、DALE、SPICES）について簡単に説明をされていましたので、振り返りとして良いように感じた。
- △△地区も同様ですが、ゲームの賞を個人に渡していますが、他の地区では、一番差のあったグループに渡していた。ＳＧＤの意義や、個人の感想ではなく、グループとしての感想になるために、２日目の議論が活発になることを導くためにも良いと感じた。
- △△地区では、１日目の感想を情報交換会の際に、グループ毎に話して頂いており、効果的であると思われる。
- WS 前日の練習会は、最後の振り返りの時間なので、タスクフォースは必ず参加すべきである。
- 全体的にみて、問題点はなくプロダクトの完成度や参加者の満足度など、必要にして十分な成果を挙げた WS であった。
- 2P6S での教育評価セッションで、総括的評価を取り入れたのは 6 グループ中 1 グループだけであった。薬剤師倫理以外のテーマで総括的評価を行わないという経験がなかったので少々驚いた。ただ、参加者にその理由を聞いてみると、実習期間終了までに何回も形成的評価を繰り返して学生を合格レベルまで引き上げるという説明であり、そのような考え方もあるかなと思った。
- ○○地区では、薬剤師会・病院薬剤師会・大学の連携が密接にとられており、良い環境で WS の参加者を迎えることができていると感じた。会場の環境整備や人的協力など、△△大学の協力も特筆すべきものがあった。
- 自分の経験した WS に比べて、タスクフォースの介入度合いが少ないという印象を受けたが、参加者からの意見を尊重することで、議論が進み、結果的に完成度の高いプロダクトが作成されたことに驚くと同時にタスクワークの質の高さに感心した。
- 6 年制実務実習 3 年目ということもあり、参加者のモチベーションが高く、活発な議論がなされていた一方で、指導薬剤師以外の薬剤師への実務実習教育に対する情報提供が不十分な現状（○○地区だけでなく、全国的な課題）も同時に実感した。不足している

例としては、インターネットを利用した実務実習指導管理システムの内容（形成的評価や自己評価のシステムが既に実用化されていること）や指導薬剤師のスキルアップを図るアドバンスト WS の開催などの情報が挙げられる。

- 今回の WS 参加を経験して、シニアタスクフォースとして参加した自分自身も成長できたことを、関係各位に感謝いたします。
- 適度な緊張感とタスクフォース自身が WS を楽しむ姿勢がうまくかみ合っていると感じた。△△地区では、年に 1 回の開催になったせいか、タスクフォースの緊張感が少し前面に出てしまっているところがあると感じていたので、△△地区でももっと余裕のあるタスクワークができるようになるべきだと感じた。今回、○○地区で参加して自分自身が大変勉強になりましたので、このような機会がまたあれば、是非、参加させていただきたい。
- 最寄駅からのアクセスが良くないという欠点はありましたが運営等を含め WS 全体としては上手く実施された。
- 認定実務実習指導薬剤師養成のための WS の主題はカリキュラムプランニングであるが、今回ほとんどの参加者が実務実習を受け入れた経験のある施設に所属していた。今後、WS の内容に関しては変える必要は全くないが、すでに実務実習が始まっている中では、カリキュラムプランニングにプラスしてタスクワークにより、現実の実習での活用法まで発展させると、より効果的な WS に出来るのではと考える。
- 自分自身非常に勉強になった WS であった。受講者やタスクの皆さんが色々な考え方、各地域での取り組みや問題点などについて、情報の共有化が効率的に図られていた。今後、他の都道府県や他の地区調整機構からの受講者も含めて参加するなどの交流を図ることが有効である。
- タスクフォースと事務局が一体となって参加者に対して、WS への取り組み態度を知らせしめる雰囲気作りが希薄であると思えた。例えば、P 会場でのタスクフォースや事務局の私語が気になる場面が多かったり、タスク自身が携帯電話を P 会場で参加者が発表しているときに長時間にわたり操作している、タスク自身が時間厳守を徹底できていないといった、ワークショップのグランドルール破りが散見された。参加者がワークショップに取り組む姿勢は、タスクフォースの醸し出す雰囲気に左右されると考えられるので、こういう点は徹底した方がよいと考える。このような点に関して、チーフタスクフォースはタスクミーティングで毅然と方針を示した方がよかったと思える。
- 参加者およびタスクフォースまでふくめて小規模な WS であったので、全体が把握しやすく、参加者とタスクフォースの間の相互信頼に基づいた運営が行われていたと感じた。アットホームな WS は普段慣れている大規模で効率重視の WS では忘れかけていたタスクフォースも事務局も参加者も一緒になって作り上げていく雰囲気を思い出した。タスクフォースと参加者が同じ地域という絆で結ばれ相互敬意に満ちた時間でした。効率と確実性を求める WS に偏りがちの我々は、みんなで同じ火を囲むというワークショップの原点を思い出す必要がある。
- 地区の WS 開催回数が少ないので、しか開催されない．質の担保を考えるとぎりぎりの線である。調整機構が更に指導力を発揮し、質的ならびに量的にタスクフォースのレベ

ルアップを図るように様々な工夫をしていただきたい。

- 時間的に 2 日間でぎりぎりのスケジュールである。WS が始まった頃は合宿形式が主であり公式プログラムの終了後にも宿舎にて交流する時間的な余裕があった。例えばゲームのセッションを他のプログラムに変更するなどして、時間的な余裕を生み出す工夫が必要であろう。
- 質の担保をしつつタスクフォースの世代交代をどのように進めるかは今後の課題である。
- ＷＳの参加希望者はまだ大勢いる。なるべく多くの方に参加していただきたい。
- 資料のバージョンアップをどのように図るか検討すべきである。
- 後日提出された報告書原稿に対してどのようにフィードバックするかについて検討すべきである。
- コンサルタントの世代交代や講演内容の統一を図るべきである。
- もっとも重要な課題としては、希望者にはなるべく多く参加していただきたい点と考える。現場の薬剤師の方々に６年制薬学教育を最も良く、積極的に知っていただくには WS に参加していただくのが最良の方法である。希望者の方々は６年制薬学教育に興味のある方々であり、少なくとも逆風でなく協力的な立場の方々である。様々な理由から回数が減少しているのは大変残念なことである。予算のこと，開催資格のことなどクリアすべき点は多々あるが、回数を増やすことが最優先課題ではないだろうか。
- 各地区でコンサルタントを養成することが必要だが、ベストと思われる先生方との出会いは必ずしも多いとはいえない。継続的に検討すべき課題である。

資料２

ワークショップの運営及びプログラムに関する現状の把握、問題点の抽出・明確化と改善策の策定

ワークショップの運営及びプログラムに関する現状の把握、問題点の抽出・明確化と改善策の策定

平成23年度に実施した指導薬剤師を対象とするアンケート調査の結果、ＷＳ委員会委員、各地区推薦の大学教員や指導薬剤師を対象とするアンケート調査、シニアタスクフォース派遣によって得られた各地区のＷＳに関する調査の結果と、平成24年度に実施したタスクフォースの派遣・交流によって得られた各地区のＷＳに関する調査の結果を詳細に解析することにより、ＷＳの運営及びプログラムの現状の把握と、課題及び問題点の抽出・明確化を行った。さらに、これらの課題及び問題点について、今後指導者としての意識と指導能力の向上を図るための改善策の策定を行った。このうち、本年度に取り組むべき課題及び問題点に対する改善策については、別途アクションプランの作成を行い（資料３）、それぞれ改善に着手した。

１．ワークショップの運営について

（１）会場

【現状・課題・問題点】

- 会場へのアクセス、環境、広さ、設備、会場配置等については、すでに複数回ワークショップを実施している会場を使用する場合がほとんどであり、大きな問題は認められない。
- 新規に開催する会場については、上記のような条件について、参加者がワークショップに集中できるように十分配慮する必要がある。
- セッションの作業説明をパワーポイントに変更した場合は、今後ＯＨＰを使わない参加への連絡、情報提供を行う必要がある。

【今後の対応・改善策】

- 基本的な会場の条件について、新規に使用する会場においても円滑かつ効果的にＷＳが実施されるように、また各地区で多少異なる条件についても可能な限り統一すべく、モデル的な会場配置図や留意事項を含めた「ガイドライン」を作成、周知する。
- 各地区で工夫し、効果をあげている点について情報の共有化を行い、普及を図る。
- ＯＨＰに代わる参加者への連絡、情報提供については、黒板、ホワイトボード、紙媒体等を用いている地区があり、会場の設備に応じた方法について上記「ガイドライン」に記載する。

（２）運営

【現状・課題・問題点】

- 昨年度まで認められた大学主催のＷＳについては、本年度は各地区調整機構主催に改められ、全てのＷＳが地区調整機構の主催として開催された。
- 開催手続及び運営については、ＷＳ委員会がＷＳの実務実習指導薬剤師研修会としての質を担保するために提示した「認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ（薬学教育者ワ

ークショップ）実施要項」（以下、ＷＳ実施要項）及び「認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ（薬学教育者ワークショップ）の開催に必要な要件」（以下、ＷＳの開催に必要な要件）に従って行われており、一部不徹底な部分は認められたが、大きな問題はなかった。

- 上記の「ＷＳ実施要項」及び「ＷＳの開催に必要な要件」については、一部非常に煩雑な書類作成や手続きを必要とする部分があり、多くの事務作業を担わなければならないチーフタスクフォース及び事務局にさらに負担を課している状況にある。

【今後の対応・改善策】

- 上記のように、すでに各地区開催のＷＳの運営については大きな問題が認められず、定めだれた基準に基づいて開催されているので、今後は上記のような書類作成や手続きについて簡略化し、チーフタスクフォース及び事務局の負担軽減を図る。

（３）ディレクター

【現状・課題・問題点】

- ディレクターについては、「ＷＳの開催に必要な要件」に“薬学教育協議会代表理事に加え、ＷＳを開催する地区の調整機構の長とし、これに共同主催者である都道府県薬剤師会、都道府県病院薬剤師会、薬学部を設置する大学及び薬科大学等（以下、共同主催者）の長を加えること”と示されているが、実際にはＷＳ間で統一されていないことが明らかとなった。
- 各地区のＷＳにおいて、主催者は地区調整機構で統一されているが、共同主催者が異なることが上記のようにディレクターがＷＳ間で統一されていないことの原因である。この点については、薬学教育協議会代表理事名と主催者である地区調整機構長がディレクターになっており、しかもＷＳの質が担保されていれば、ディレクターを統一する必要はない。
- ディレクターは初日挨拶を行ったが、ＷＳを通しての参加していない場合がある。ＷＳの開催責任者であるので、２日間参加することが望ましい。
- ＷＳ開催は６年制薬学教育の要であるはずだが、関係者全員の意識が十分に高まっていない。したがってＷＳ自体は問題なく実施できていても波及効果は限定的である。ディテクターを務めるトップの意識を高めル必要がある。

【今後の対応・改善策】

- ディレクターはＷＳの責任者として２日間参加するように各地区に提言する。
- ディレクターを中心に各地区での薬剤師育成教育の充実を図るように各地区に提言する。

（４）チーフタスクフォース

【現状・課題・問題点】

- 概ね、チーフタスクフォースはその役割を十分果たしているが、一部に「WS の開催に必要な要件」に記載がある“ＷＳ企画責任者の経験、またはＷＳ世話人（タスクフォース）としての豊富な経験がある者であること”という要件を十分に満たさないと考えられるチーフタスクフォースが任用されている場合が見受けられる。チーフタスクフォースの役割は WS の質を担保する上で非常に重要であるので、このようなことが内容に改善すべきである。

【今後の対応・改善策】

- 各地区において上記の指針に従ってチーフタスクフォースに任用できる大学教員及び病院・薬局薬剤師を決め、薬学教育協議会に届ける仕組みを作る。

- 全国規模のタスクフォーススキルアップ集会を開催し、チーフタスクフォースの役割を果たすことができるタスクフォースの養成を行う。

（５）事務局

【現状・課題・問題点】

- 地区調整機構の事務局が主体となる場合や、開催都道府県の薬剤師会・病院薬剤師会、あるいは開催大学が単独あるいは共同で事務局を務める場合が認められる。実際には、事務局の主体となる組織や構成の違いによって事務に支障が生じている地区はないことから、これについても統一する必要はないと考えられる。

【今後の対応・改善策】

- 参加者やタスクフォースとの事務連絡については、各地区で様々な工夫が行われているので、これらに関する情報の共有化を図ることによって、さらに事務を円滑に行うことが可能になると考えられる。

（６）Ｐの責任者

【現状・課題・問題点】

- 概ね、Ｐの責任者の役割は十分に果たされているが、一部にＰ会場の責任者の役割を十分に果たしていない場合が見受けられる。チーフタスクフォース同様、Ｐ会場の責任者の役割はＷＳの質を担保する上で非常に重要であるので、このようなことが内容に改善すべきである。

【今後の対応・改善策】

- チーフタスクフォースに準じて、Ｐ会場の責任者に任用できる大学教員及び病院・薬局薬剤師を決め、薬学教育協議会に届ける仕組みを作る。
- 全国規模のタスクフォーススキルアップ集会を開催し、Ｐの責任者としての役割を果たすことができるタスクフォースの養成を行う。

（７）Ｓの責任者

【現状・課題・問題点】

- 介入、助言をし過ぎる場合が見受けられる。
- 経験不足のため、的確なコメントができない場合が見受けられる。
- 一部で、Ｓ会場から頻繁に離れるため、的確なコメントができない場合が見受けられる。
- ＷＳにおけるプロダクト作成においてＳの責任者の役割は重要であるので、上記のような点については改善する必要がある。

【今後の対応・改善策】

- 練習会や前日の練習会の時点で、Ｓ会場でのタスクワークについて統一化を図る必要がある。
- 全国規模あるいは地区単位のタスクフォーススキルアップ集会を開催し、Ｓの責任者を果たすことができるタスクフォースの養成を行う。

（８）タスクフォース

【現状・課題・問題点】

- ここ数年各地区でのＷＳの開催回数が減少しているため、若手タスクフォースの養成が十分に行われていない。特に薬剤師のタスクフォースは、実務実習においても各地区でリーダー的な役割を果たしてもらえることが期待できるので、今後一定数を確保できるように

計画的な養成を行う必要がある。

- 女性のタスクフォースが少ない。
- 大学の実務家教員のタスクフォースが少ない。

【今後の対応・改善策】

- 地区単位で、若手で将来的にＷＳを主導することが期待できる人材や、薬学教育に対する意識が高い女性、実務家教員を計画的に新人タスクフォースとして養成できるような仕組みを提言する。

（９）事前練習会

【現状・課題・問題点】

- ほとんどのＷＳで行われているが。行われていない場合、あるいは行われているが新人タスクフォースの練習に限定されている場合が見受けられる。事前練習会は、タスクフォースのセッションの説明の練習だけでなく、スケジュール確認やタスクワークに対する共通認識を得るために有用であることから、改善する必要がある。

【今後の対応・改善策】

- タスクフォースの参加要件として、ＷＳの当日２日間だけでなく、事前練習会及び前日の準備・練習会を含めて参加可能であることを周知し、可能な限り多くのタスクフォースが集まって練習会を行うよう各地区に提言する。

(10) その他

【現状・課題・問題点】

- 「ＷＳ実施要項」及び「ＷＳの開催に必要な要件」について、各地区のワークショップの共同開催組織に十分に伝達されていない事例が見受けられる。

【今後の対応・改善策】

- 再度各地区におけるＷＳの運営・実施状況を十分調査し、“薬学教育者ＷＳ”としての質を損なうことなく、かつ各地区の実態に合わせた柔軟な運用ができるように、「ＷＳ実施要項」及び「ＷＳの開催に必要な要件」の見直しを図る。さらにこれらについては、今後ＷＳ委員会により各地区調整機構への伝達を徹底し、また薬学教育協議会のホームページに掲載して周知徹底を図る。

２．ワークショップで実施されているプログラムについて

（１）オリエンテーション

【現状・課題・問題点】

- ＷＳのスケジュール説明だけでなく、薬学教育者としての心構えを指導するような内容も含め、ＷＳ参加の意義を強調する必要がある。
- 受講者はＷＳで実務実習の指導方法が修得できると期待しているので、オリエンテーションの主たる目的はカリキュラムプランニングであることを明確に説明する必要がある。
- 受講者は何もわからない状態で参加しているので、オリエンテーションの説明だけでＷＳの目的と流れを理解することは難しい。もう少し丁寧な説明が必要である。

【今後の対応・改善策】

- 背景として、モデル・コアカリキュラム改訂に関する情報や実務実習の効果などを入れ、さらにカリキュラムプランニングの重要性を強調するなど、ＷＳの目的と流れがより理解し易い内容となるよう改善を図る。

（２）コンセンサスゲーム

【現状・課題・問題点】

- 現在主に用いられている「砂漠」と「月」の問題については、「ＮＡＳＡの見解」を知っている参加者が増えているため、別な問題を導入すべきである。

【今後の対応・改善策】

- 「ＮＡＳＡの見解」を知っている参加者を予め把握して適当な対処を行うことによりアイスブレイキングの意義が失われないようにする。その場合に不公平感が生じる最少得点の表彰をなくす等の工夫を行う。
- 「コンセンサスゲーム」ではなく、他のアイスブレイキングの方法（「他己紹介」、「お絵かき」など）の導入を検討する。

（３）ＫＪ法・問題点への対応

【現状・課題・問題点】

- ＫＪ法では、本来最も重要な“語るところを聞く”、“志を同じくするカードが集まる”という作業が、ほとんどの場合十分に行われていない。
- ＫＪ法では、カリキュラムプランニングに入る前のセッションとして重要なグループディスカッションの重要性を認識し体験することも十分できていない。
- 問題点の対応では、発表後の説明がタスクフォースによって相当異なり、誤解を招くような説明あるいは思い入れの強い説明が見受けられるが、大きな問題ではない。

【今後の対応・改善策】

- ＫＪ法については、タスクフォースがその意義やグループディスカッションの意義を的確に伝える必要がある。また、時間に追われる作業なので、タスクフォースによる時間のコントロールも重要である。これらのタスクワークについては、全国規模あるいは地区単位のタスクフォーススキルアップ集会を開催し、スキルアップを図る。
- ＫＪ法に代わる問題点の抽出方法を取り入れる。有効な方法として「World Café」が考えられるので、今後トライアルによる検証を行い、有用性が認められれば、ＫＪ法に代わるオプションプログラムとして導入を図る。
- 問題点への対応については、問題となっている点をタスクフォースの留意事項として周知することによって改善を図る。プログラムとしての変更は行わない。

（４）カリキュラムプランニング

【現状・課題・問題点】

- 「学習目標」のセッションでは、大学における薬剤師養成教育、医療現場における実務実習に対応した実践的かつ教育効果が高い学習目標の立案方法、特にGIOやSBOsを作成する上での動詞の効果的な使い方について修得できるようにすべきである。
- 「学習方略」については、受講者のニーズは、実務実習のモデル・コアカリキュラムに合わせて、臨床現場での指導に具体的に活用できる学習方略の立案方法の修得にある。しかし、現状の「学習方略」のセッションでは、時間的な制約や予備検討の不足により、こういった立案方法の修得は十分にできているとは言えない。
- 「教育評価」については、受講者のニーズは、実務実習のモデル・コアカリキュラムに合わせて、臨床現場での指導に活用できる教育効果が高い教育評価の実施方法、特に実務実習現場における形成的評価や総括的評価の方法の修得にある。しかし、「教育評価」のセッションでは、あくまで「学習目標」のセッションで策定した学習目標の到達度をバーチャルに評価するための評価項目の策定であり、ＷＳでは実習現場の学生の学習状況に合

わせた評価方法の修得は難しい。

【今後の対応・改善策】

- 全国規模のアドバンストＷＳを開催し、実践的かつ教育効果が高い学習目標の立案方法、特に学習目標作成の際の動詞の使い方の重要性と的確な選定方法について、タスクフォースのスキルアップと参加者を介した各地区でのプロダクトへの反映を図る。
- 「学習方略」のセッションについて、Ｓ会場での作業時間の延長や、カリキュラムプランニングを行う前に「学習方略」作成に関する予備的な作業を行うことにより、受講者のニーズに対応した、臨床現場での指導に具体的に活用できる学習方略の立案方法の修得を可能にする。
- 各地区で指導薬剤師及び大学教員を対象に開催するアドバンストＷＳで実施することにより、受講者のニーズに対応した臨床現場での実務実習の指導に具体的に活用できる教育効果が高い教育評価の実施方法の修得を図る。

（５）コンサルタントによる医療人教育改革に関する講演

【現状・課題・問題点】

- 医学教育・医療人教育の経験が豊富なコンサルタントが担当する講演については、主に昭和大学の中島先生、木内先生にお願いしており、また独自の演者を設定している地区もある。一方で、中島先生の講演の DVD を使用している地区も複数ある。

【今後の対応・改善策】

- 現在、コンサルタントによる講演が可能な地区はそのまま継続し、中島先生の講演の DVD を使用している地区については、地区のＷＳ主催者とＷＳ委員会が協力して、独自にコンサルタントをお願いできる方を設定する。ただし、医師であることを原則とする。

（６）ワークショップの歩みと薬学教育改革に関する講演

【現状・課題・問題点】

- 統一的な内容になっていない。伝達すべき情報を整理して共通性の高い講演にすべきである。
- 参加者の薬学教育や実務実習の現状や今後の展望に対する理解を深めるような講演を行うべきである。

【今後の対応・改善策】

- 全国で完全に統一する必要はないが、伝達が必須の内容については、スライドを特定し、全国で共通に使用するようにする。特に、薬学教育や実務実習の現状や今後の展望について情報提供するように留意する。
- 本講演の後に質疑応答の時間を取り、薬学教育や実務実習に関する情報の共有化を図る。

（７）ワークショップで使用する教材や配布資料について

【現状・課題・問題点】

- 平成 23 年度から、タスクフォースによるセッションの説明をパワーポイントで行えるように、各地区に全てのセッションの説明用ファイルを配布した。一部の地区では未だＯＨＰを使用しているところもある。
- パワーポイントについては、セッション担当のタスクフォースが独自の書き込みを入れて使用したり、アニメーションを多用したりしており、統一できていない。
- 地区によって、Ｓで閲覧する補足資料の統一ができていない。
-

【今後の対応・改善策】

- 今後もパワーポイントに統一するのではなく、会場設備や機材の調達状況に合わせて、機材を選択できるようにする。
- パワーポイントについては、原則新たな書き込みを禁止した上で、スライドの順番やアニメーションは参加者が理解し易いように適宜変更可能とすることを各地区に伝達する。
- Ｓで閲覧する補足資料については、参加者の理解が進むように統一及び追加を行う。また、Ｐ会場で参加者に配布しファイリングしてもらう資料についても、薬学教育の現状に合わないもの、不足しているものについて精査し、必要に応じて削除、修正、追加を行う。
- 厚生労働省が出している実務実習指導薬剤師向けの指導方法のガイドラインである「薬剤師養成のための薬学教育実務実習の実施方法について」は、全国共通に配布すべきであるので、各地区に伝達する。

（８）報告書の扱いについて

【現状・課題・問題点】

- 平成 23 年度以降、ＷＳ主催者からの薬学教育協議会への報告書の提出が滞っている地区がある。

【今後の対応・改善策】

- 主催者から薬学教育協議会へ報告書を提出することは「ＷＳ実施要項」に明示してあるので、必ず提出するようにあらためて各地区へ伝達する。
- 参加者の WS へ参加した意義を高めるためには、WS に提出された報告書についてフィードバックを行うことが効果的と考えられる。現状では、タスクフォースがこのようなフィードバックを担当することは負担が大きいので、実施に向けて効率的かつ効果的な方法について検討を行う。

資料３

薬学教育協議会

第１回全国薬学教育者アドバンストワークショップ

（タスクフォーススキルアップ集会）

資料 3-1

プログラムと実施体制・参加者

1．プログラム

薬学教育協議会第１回全国薬学教育者アドバンストワークショップ
（タスクフォーススキルアップ集会）
「効果的な薬剤師教育に向けたカリキュラムの作成」

・日　時：　平成 24 年 12 月 23 日（日）　午前 10 時～午後 5 時
・会　場：　帝京大学薬学部（板橋キャンパス）〒173-8605　東京都板橋区加賀 2-11-1

【プログラム】

10:00	P	開会
	P	・趣旨説明（5分）
	P	・自己紹介（1人10秒・10分）
10:20	P	「SBOsに使える動詞を考えてみよう」
		・作業説明（１）（10分）
10:30	S	討論・プロダクトの作成（1）（70分）
11:40	P	発表（各グループ3分）・総合討論（15分）
12:10	P	「学習目標の動詞を変えると何が変わる？」
		・作業説明（2-1）（5分）
12:15		昼食（情報交換会）（60分）
13:15	P	「学習目標の動詞を変えると何が変わる？」
		・作業説明（2-2）（10分）
13:25	S	討論・プロダクトの作成（2）（70分）
14:35	P	発表（各グループ5分）・総合討論（30分）
15:30		コーヒーブレイク
15:40	P	特別講演　中島宏昭
		「ワークショップの隠し味-タスクフォースのスキルアップのために」
15:25	P	話題提供（25分）
16:50	P	講評（伊東陽子・専門官）
17:00	P	閉会

2．実施体制・参加者

（1）実施体制

・ディレクター
須田 晃治（薬学教育協議会）
・コンサルタント
中島 宏昭（前昭和大学医学部）
・オブザーバー
伊東 陽子（文部科学省高等教育局医学教育課薬学教育専門官）
政田 幹夫（日本病院薬剤師会）
久保 鈴子（日本薬剤師研修センター）
・タスクフォース
阿部 芳廣（慶應大学）、大野 尚仁（東京薬科大学）、
大原 整（日本薬剤師会）、木内 祐二（昭和大学）、小佐野 博史（帝京大学）、
高橋 寛（日本薬剤師会）、戸田 潤（昭和薬科大学）、
戸部 敞（薬学教育評価機構）、永田 泰造（日本薬剤師会）、
原 博（薬学共用試験センター）、平田 收正（大阪大学）
・事務局
薬学教育協議会、帝京大学薬学部

（2）参加者（1P5S）

全国８地区の調整機構、日本病院薬剤師会、日本薬剤師会からの推薦者 40 名

【Ａグループ】
・参加者　遠藤 泰（北海道医療大学）、青柳 裕（金城学院大学）、
高野 克彦（北陸大学）、川崎 郁勇（武庫川女子大学）、
武田 秦生（日本病院薬剤師会）、小松 真紀子（日本薬剤師会）、
鵜飼 典男（日本薬剤師会）、吉田 亜賀子（日本薬剤師会）
・タスクフォース　阿部 芳廣、大原 整

【Ｂグループ】
・参加者　野呂瀬 崇彦（北海道薬科大学）、藤 秀人（富山大学）、
渡邊 正知（徳島文理大学香川校）、木皿 重樹（日本病院薬剤師会）、
萱野 勇一郎（日本病院薬剤師会）、
大津山 裕美子（日本病院薬剤師会）、山田 純一（日本薬剤師会）、
成重 賢司（日本薬剤師会）
・タスクフォース　木内 祐二、小佐野 博史

【Ｃグループ】

・参加者　諸根 美恵子(東北薬科大学)、谷 雅子（安田女子大学）、
村山 恵子（第一薬科大学）、橋本 真也(日本病院薬剤師会)、
朱亀 進司(日本病院薬剤師会)、室井 延之(日本病院薬剤師会)、
佐藤 孔治(日本薬剤師会)、隠岐 英之(日本薬剤師会)

・タスクフォース　戸田 潤、永田 泰造

【Ｄグループ】

・参加者　四宮 一総（日本大学)、黒野 俊介（名城大学）、
塩田 澄子（就実大学）、山田 英俊(日本病院薬剤師会)、
山本 かおる(日本病院薬剤師会)、熊谷 明知(日本薬剤師会)、
浜野 邦彦(日本薬剤師会)、上野 浩男(日本薬剤師会)

・タスクフォース　原　博、大野 尚仁

【Ｅグループ】

・参加者　関 俊暢（城西大学）、八巻 耕也（神戸薬科大学）、
入江 徹美（熊本大学）、谷村 学(日本病院薬剤師会)、
毡越 崇範(日本病院薬剤師会)、桂 正俊(日本薬剤師会)、
橋本 昌子(日本薬剤師会)、西 洋壽(日本薬剤師会)

・タスクフォース　高橋 寛、戸部 敞

＜参加者＞

資料 3-2

作業説明

1．セッション１「SBOs に使える動詞を考えてみよう」
（東京薬科大学・大野 尚仁）

薬学教育協議会
第１回
全国薬学教育者ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽﾄﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ
（タスクフォーススキルアップ集会）

効果的な薬剤師教育に向けた カリキュラムの作成

2012.12.23（日） 帝京大学薬学部

スケジュール

10:00	P	開会	挨拶：須田 晃治	薬学教育協議会 事務局長	
10:05	P	タスクフォースのスキルアップに向けて（1） 作業説明：大野 「薬剤師教育相応しい学習目標を表す動詞を考えてみよう」			10分
10:15	S	SGD			70分
11:25	P	発表（各グループ3分）・総合討論（15分）			35分
12:05		昼食（情報交換会）	司会	：小佐野	60分
13:10	P	タスクフォースのスキルアップに向けて（2） 作業説明：阿部 「学習目標の動詞が変えると、何が変わる？」			10分
13:20	S	SGD			70分
14:30	P	発表（各グループ5分）・総合討論（25分）			45分
15:15		コーヒーブレイク			10分
15:25	P	特別講演 中島宏昭先生	司会	：小佐野	45分
16:10	P	情報提供	平田 WS委員長		30分
16:55	P	講評 厚生労働省、文部科学省	司会	：平田	5分
17:00	P	閉会			

報告書
「概要と感想」または「セッション報告」

提出期限：25年1月15日（火）
提出先： 薬学教育協議会 関藤 宛
E-mail: m.sekitoh@r3.dion.ne.jp

作業説明 part-1

SBOに使える動詞を 考えてみよう

はじめに

タスクフォースとして、

- WSのプロダクトに満足していますか？
- より良いプロダクトを持ち帰ってほしいですね。

作業説明 part-1